



# 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043(222)7207 番  
FAX 043(224)7197 番

2000.10.18 No. 5210

## JR総連九州労、組織崩壊

### 11・5労働者集会に集まろう

#### 東労組のデマビラ郵送を許すな

JR東労組は、動労千葉組合員の自宅に、各分会名で、デマを書き連ねたビラを送りつけている。

その内容は、国労と鉄産労に對するいつものとおりの卑劣な誹謗・中傷である。動労千葉のことにはひと言もふれていないものだ。しかも、その送りつけ方も、ごく一部だけという及び腰で、ある職場の東労組分会長は、「何でこんなものを送りつけるんだ」と、動労千葉の組合員から追及されると、「私たちがやったのではないので知りません。二度とこんなことのないようにします」と謝ってしまう始末だ。何ひとつ正当性のない彼らには、面と向かって堂々と主張することもできないようはずもないが、ひと言追及されれば謝ってしまうような組織実態のなかで、一部の革マル分子だけがコソコソと動いているということだ。われわれは、こんな卑劣なやり方を絶対に許さない。

#### 国労臨大に打撃を受ける東労

JR東労は、郵送してきているビラで国労臨大に触れて、「情けない国労本部」「情けない臨時統開大会」と非難している。だがそもそも、10万人の首切

りに率先協力し、会社の懐に飛び込んで、資本と一体となって生きる道に転落した彼らに、こんな非難を投げる資格はない。

しかも「四党合意」の受け入れという、国労本部の屈服方針に對して闘争団や家族が必死で抗議し、闘っている状況に罵詈雑言を浴びせる革マル特有のやり方は卑劣としか表現のしようのないものだ。それ自身が権力の手先になり果てていることの証明に他ならない。労働組合の名を借りて、権力者の意を受けて国労破壊の急先鋒を担うやり方は、ファシズムそのものである。確かに国労は、本部の裏切りによつて、大変な困難に直面している。しかし、二回の国労臨時大会は、現場の労働者の激しい怒りの声が、自民党、政府・運輸省による国鉄闘争解体、国労潰しの攻撃をはね返し、国労の闘う再生の展望を大きく切り開いた素晴らしい大会であった。要するにJR東労組は、国労が臨時大会で「四党合意」を決定し、全面屈服することを願っていたのだ。それが完全に粉碎され自分たちが打ちのめされてしまったのだ。

#### 「戦争推進部隊」はだれた!

またビラでは、国労はJR連合という戦争推進部隊に吸収されると書き並べている。これは要するに、国労と鉄産労が一緒

になってJR連合となつたら、自分たちは確実に資本から切り捨てられるということに怯えているというのだ。国労をより変質させ、解体する立場から批判しているのである。

「戦争推進部隊」なる言い方についても自分たちのことは棚に上げてのことだ。JR総連会長松崎は、会社幹部、総連幹部を前にして「食っていくためには軍需生産が必要、ストライキよりは賃金半減のワークシェアリング」と講演しているのだ。昨年の連合大会に向けての連合「新政治方針」に對する「対案」では、安保も自衛隊も承認し、国連による軍事活動や新ガイドラインに協力することを表明したのだ。

#### JR総連九州労が崩壊!

JR総連は今、組織崩壊への最後の坂をころげ落ちている。JR九州でJR総連から九州労の組合員六七〇名が、一斉に集団脱退したことが明らかになった。東海から西のJR会社ですべてにJR総連は少数組合に転落しているが、それでも九州労組の七割以上の組合員が脱退したことになる。事実上の崩壊・消滅である。

しかもこの組織崩壊は、革マル派がその政治組織局声明で「クーデターだ」と言つて罵り、東労組も全く同様の非難を行つ

ているように、革マル内部の亀裂・分裂が決定的なところまで行き着いた結果として起きたものだ。

とくに東労組の声明文は、「組織破壊者どもよ、覚えておくれ!」権力者に屈服と忠誠を誓う者に未来などない。戦争推進集団とともに暗黒の闇に沈むだけである」等、危機感をむきだしにしたものだ。

だが、これらの言葉はそっくり東労組に返すしかない。鉄産労に組織消滅の危機ということをおおひながら、自分たちの組織はそれ以上の危機に陥っているのが現実だ。革マルは、JR資本からの切り捨てに怯え、爆発的に矛盾を噴出させている。

#### 今こそJR総連を解体しよう!

いまこそJR総連解体、組織強化・拡大へ全力を挙げて起ちあがろう。二九回定期大会で確認した三大方針を貫徹しよう。全ての闘いはJR総連との闘いであり、その闘いの総括は組織の強化・拡大である。

いまやあらゆる職場でJR総連・革マルに對する怒りの声が吹き出している。シニア・外注化粉碎の闘いの高揚と組織拡大・強化の闘いは一体である。全組合員の力を結集し、一〇四七名闘争勝利、シニア・外注化攻撃粉碎、組織強化・拡大をかちとろう。